

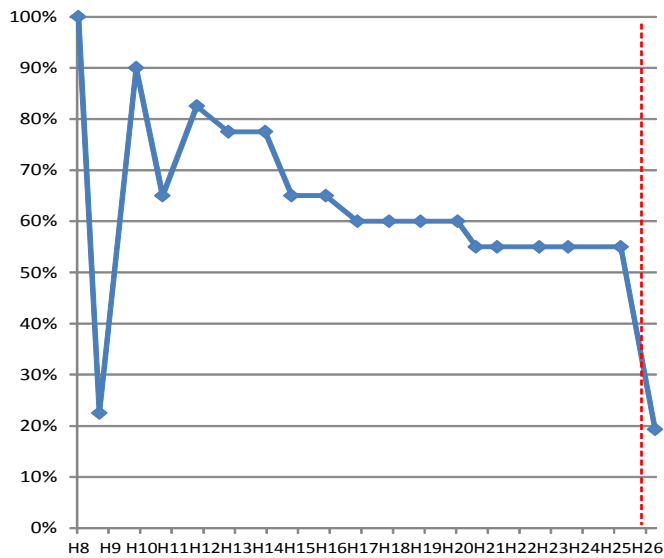


樹種名	ミズキ	
科 目	ミズキ科	
学 名	<i>Swida controversa</i>	
分 布	北海道、本州、四国、九州に分布し、各地で広く生育する。国外では、朝鮮半島、台湾、中国からヒマラヤの山地にまで分布する。	
樹木特性	陽樹であり、平地から山地まで生育し、土壌の深いやや湿った場所を好む。暗い環境では成長はしないことから耐陰性は低い。幹が直立することから、萌芽更新を行う雑木林では株立ち状となり、萌芽力は強い。このことから、伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約 20 cm未満で萌芽本数は 10 本程度である。さらに、萌芽発生が見込まれる最大の切り株直径は約 20~30 cmである。 生育環境が良好な場合では、寿命は最大樹齢が 100 年以上と推定され、埋土種子は休眠するが、寿命は短い。	
用 途	街路樹、建築・食器・箸・杖・下駄・こけし材に利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	259 本 / 0.04ha (約 3800 本 / ha)	
特 徴	<p>【樹形】</p> <p>ミズキはミズキ科ミズキ属の落葉高木。樹高は 10~15m。枝を扇状に四方に広げる。若枝は紫紅色で、はじめ細かい毛をもつが、のちに無毛になる。葉は長さ 2~5cm の葉柄をもって互生し、広卵形から楕円形で縁は全縁、先はとがる。裏面は白く、弓形に曲がった 5~9 対の葉脈が隆起する。花期は 5 月から 6 月。新枝の先に多数の白色 4 弁の小白色花を散房花序につける。果実は核果、球形で紫黒色をしている。春期発芽前に幹や枝を傷つけると多量の水分が滲出するのが名の由来。湿気のある肥沃な深層土を好み、主として緩傾斜地または谷間に生育し生長は早い。成木は浅根性である。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽したが、植え付け時期 (5 月) が遅く、約 8 割が枯死した。枯死した理由として、すでに成長を始めていた白根を損傷させたことが原因と思われる。このことから、平成 9 年 4 月に補植を実施したが、補植苗が平均根元径 3mm 樹高 35cm 程度と小さく初期成長も小さかったため一部の苗木は枯死した。さらに植栽後、コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。活着後の生育状況は良好であり、現在では 9m 程度にまで成長している。	
被 害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ: 8 本、カミキリムシ類: 3 本)	

ミズキ 現存率



【現存率】

植栽直後に約 8 割が枯死した。枯死の原因としては、植付時期が遅く、既に活動しはじめていた白根の損傷と思われる。

また、補植後にはコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。

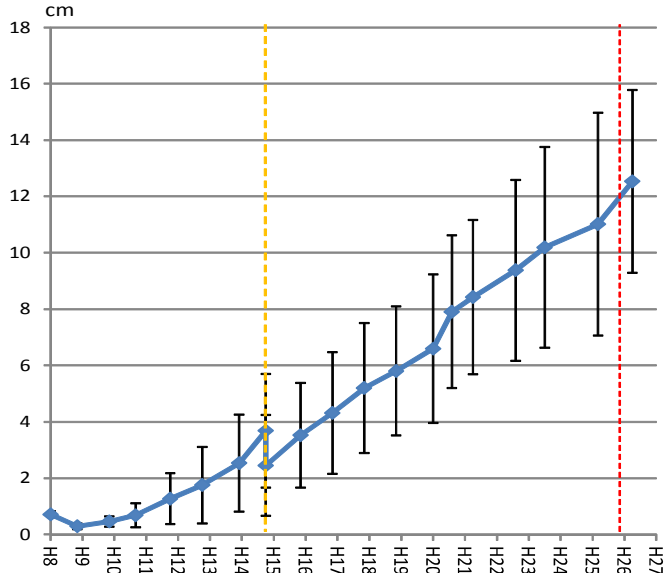
平成 20 年度以降の枯死は見られない。

林内の照度調整を図るため平成 20 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 19.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ミズキ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

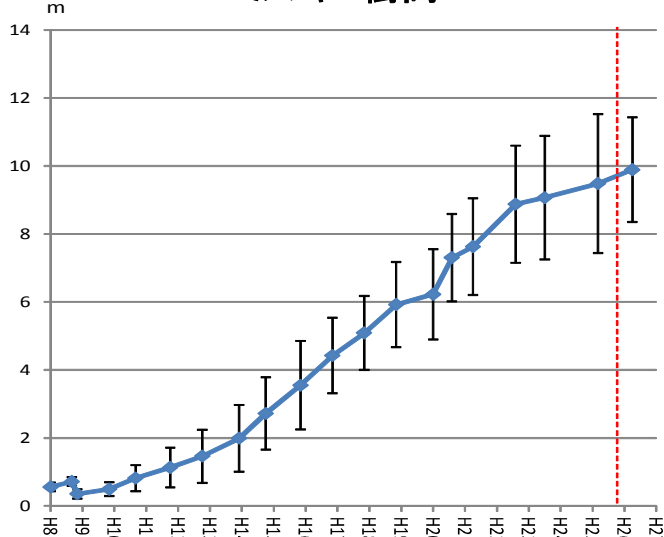
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 12.53cm であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ミズキ 樹高



【樹高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 9.89m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

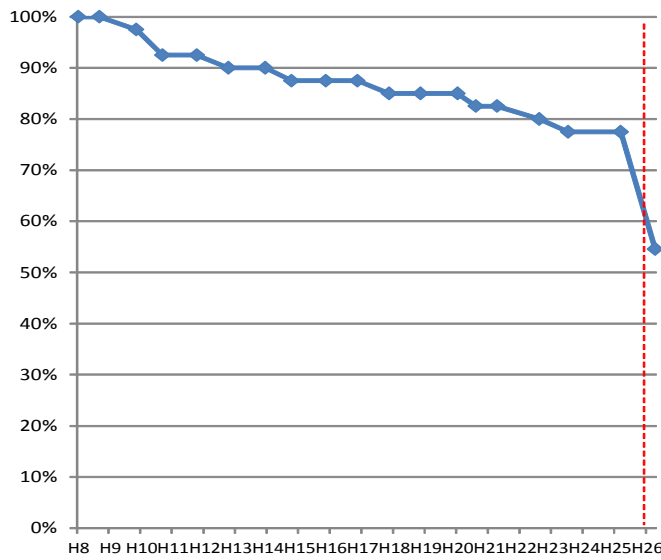


《プチ情報》

材は加工が容易で塗装仕上げも良く用途も広いが、材がまとまって生産されることがないため小規模な利用が多く建築材、器具材、彫刻材、薪炭材などに利用されていた。

樹種名	ミズナラ（別名：オオナラ）	
科目	ブナ科	
学名	<i>Quercus crispula</i>	
分布	コナラやクヌギより寒冷な気候を好み、鹿児島県高隈山を南限に、北は北海道から樺太・南千島まで分布する。	
樹木特性	陽樹であり、ブナとともに自然林を形成し、やや乾いた場所では二次林の主要な樹種となる。伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約 20 cm 前後で萌芽本数は 30 本以上である。さらに、萌芽発生が見込まれる最大の切り株直径は約 30~40 cm である。	
用途	建築・家具・器具材、しいたけ原木として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	152 本 / 0.05ha (3,000 本 / ha)	
特徴	<p>【樹形】</p> <p>ミズナラ（水楡）は、ブナ科コナラ属の落葉広葉樹。ブナと並んで落葉広葉樹林の主要樹種の一つである。ブナに比べると、やや明るい場所を好む。樹高は、大きなものでは 35 m に達する。葉はつやのない緑で、コナラよりももっと波打つような鋸歯（輪郭のギザギザ）がある。</p> <p>5 月から 6 月に長さ 5cm ほどの花を咲かせ、秋には実（ドングリ）が熟す。ミズナラのドングリはタンニンを含み、そのままでは渋くて食べられないが、灰汁抜き（あくぬき）すれば食用になる。</p> <p>心材はくすんだ褐色。加工性・着色性に優れ強度が大きく、重厚感がある。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生しているが、枯死に至るものは少なかった。また、当試験地はミズナラの生育には厳しい環境（高温）であると考えられたが、生育状況は良好である。	
被害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ：46 本、カミキリムシ類：28 本)	

ミズナラ 現存率



【現存率】

植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。

林内の照度調整を図るため平成 20 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 54.6%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

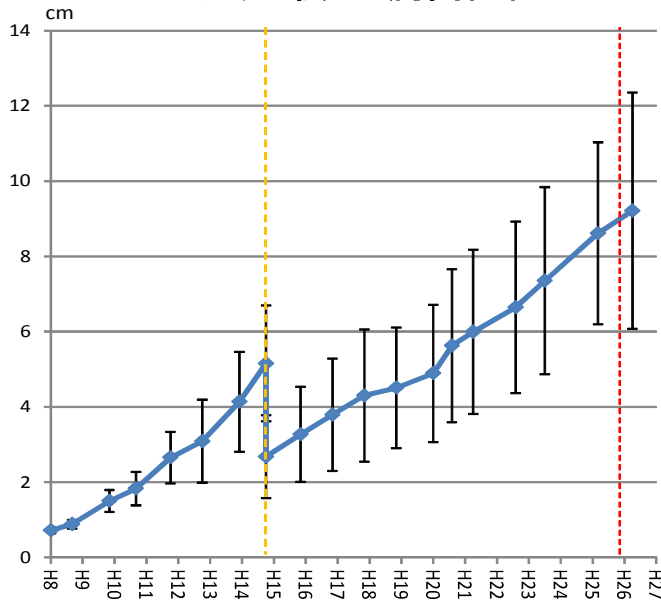
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 9.21 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ミズナラ 根元・胸高直径



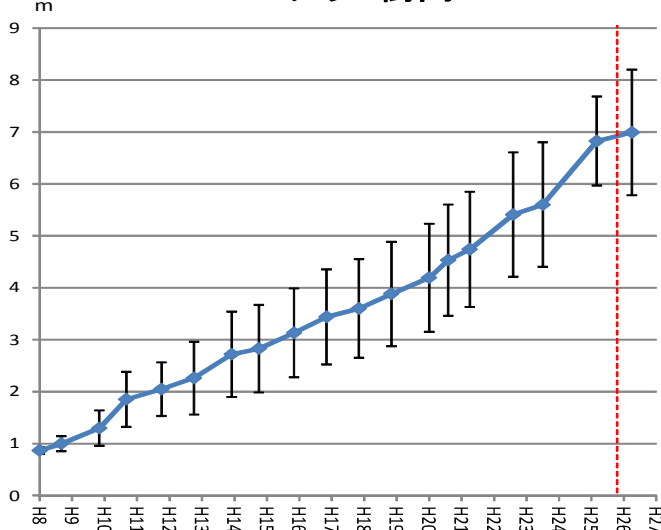
【樹高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 6.99m であった。

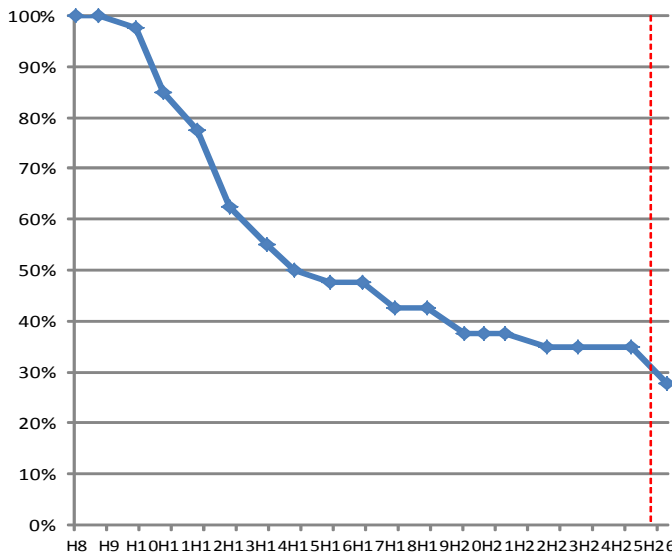
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ミズナラ 樹高



樹種名	ミズメ (別名: ヨグソミネバリ、アズサ)	
科目	カバノキ科	
学名	<i>Betula grossa</i>	
分布	本州(岩手県以南)、四国、九州(高隈山まで)に分布する。	
樹木特性	陽樹であり、山地のブナ林内に混生するほか、林内の明るいところでは、いち早く成長を始める。	
用途	建築・家具・器具材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	470 本 / 0.14ha (約 3,000 本 / ha)	
特徴	<p>【樹形】 カバノキ科カバノキ属の落葉高木。樹高は 25m ほどになる。樹皮は暗灰色で、横長の皮目が並び、サクラの仲間の樹皮に似る。薄く剥がれやすい点はカバノキ。葉は、新しい枝(長枝)に互生し、翌年からは短枝に2枚つつ着く。写真は2年枝。葉身は卵形、先は鋭尖頭、基部は浅い心形か円形。縁には重鋸歯がある。雄雌同株で、開花は4月頃、果穂は10月頃熟す。材は重くてかたく、狂いが少ない。靴の木型、算盤、建築・家具・器具材に用いられる。</p>	  
試験地での様子	<p>ポット苗植栽し、植栽初期の生育は良好であったが、寒風害が原因と思われる枯死が発生し、また、コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生したため現存率は低い。 植栽から18年が経過した現在の平均樹高は11m程度まで成長し、上長生長・通直性ともに良好である。</p>	
被害	<p>植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。 (延べ駆除本数 カミキリムシ類: 39本)</p>	

ミズメ 現存率



【現存率】

植栽後に寒風害が原因と思われる枯死が発生し、さらにコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生し現存率が低下した。このことから、平成10年度に補植（10本）を実施した。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は27.7%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

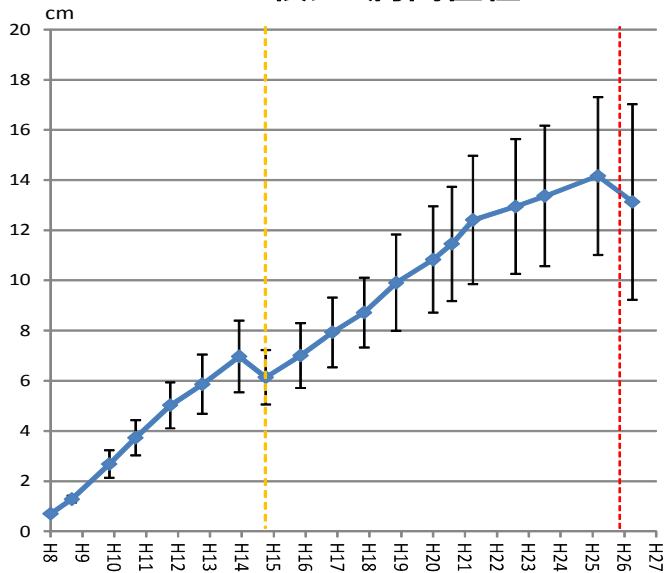
現存している樹木については、順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は13.13cmであった。

※ 赤線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ミズメ 根元・胸高直径



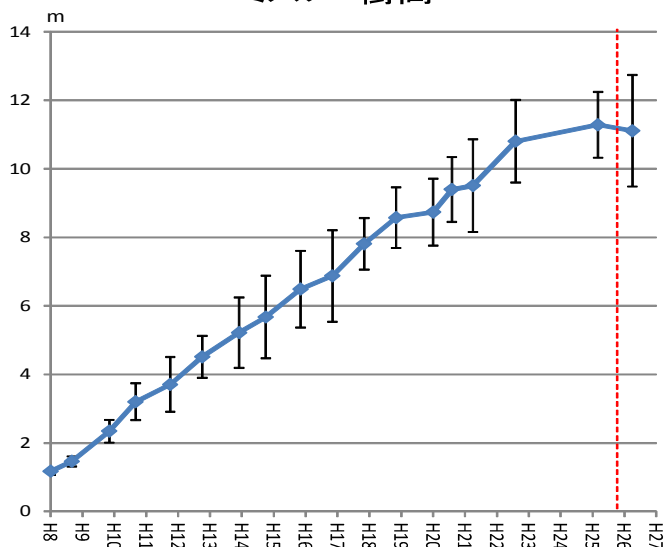
【樹高】

現存している樹木については、順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は11.11mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ミズメ 樹高



《プチ情報》

ミズメの名は樹皮を傷つくと水のような樹液がでることによる。この樹液にはサロメチールのような強い香りがある。

台切り試験を実施したが、台切りの成果は確認できなかった。